

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

平成28年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	http://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化政策課	電子メール	aizu-81@athena.ocn.ne.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年 5月 8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名 ①			事業概要				
會津八一記念館管理運営事業			會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)する。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	35,560	43,265	49,948	48,663
活動指標・成果目標			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年間入館者数	計画	人		7,900	8,000	10,000	10,000
	実績			5,952	10,804	8,332	
年間入館料	計画	千円		2,800	3,000	3,000	3,000
	実績			1,768	特別展2,727・常設展1,780	3,141	

事業名 ②			事業概要				
特別展(東アジア<書の美学>伝統と変容)			新潟市が27年、東アジア文化交流都市に選ばれたことに関連して同年9月、東アジアと欧米から書の研究者を招いて書の美学国際シンポを開いた。国内外に書王国新潟を発信できた。展示は京都有鄰館が所蔵する中国古代から清時代までの書画を中心とした作品を集め、書の源流をたどった。展示期間は36日と短く入館者は2296人だったが、1日あたりでは63人と、同年度の他の企画展の倍以上を記録した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	3,174	6,230	1,930	3,768
活動指標・成果目標			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入館者数	計画	人		3,000	3,000	3,000	3,000
	実績			1,266	4,276	2,296	

事業名 ③			事業概要				
文芸講演会事業			文芸講演会は4回実施。特別展に関連して京都有鄰館名誉館長・藤井善三郎氏「祖先文化へのまなざし～永遠の美」(8月)、企画展との連動では萱のり子・東京学芸大教授「會津八一の書の魅力」(5月)、八一の歌碑建立(7月、胎内市・柴橋産)にちなみ和泉久子・鶴見大学名誉教授「哀傷の歌會津八一の『山鳩』」(10月)、絵手紙作家・小池邦夫氏「私の絵手紙人生～會津八一との出会いを通して」(2月)の3回。いずれも會津八一の書、書簡、歌、書画の魅力をそれぞれ研究者の立場から語ってもらい聴衆を引き付けた。館長並びに学芸員による出前講座は13回。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	500	760	400	800
活動指標・成果目標			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開催数	計画	契約		10	5	10	6
	実績			7	12	8	
聴講者数	計画	契約		1,500	1,500	1,500	1,500
	実績			873	1,410	1,099	

事業名 ④			事業概要				
販売事業			會津八一の「学規」割引セールは毎年度実施。27年度は当館開設40周年を記念し特別割引セールを実施中。開発を検討していた商品は、「学規」をあしらった一筆箋ができあがった。品ぞろえが充実した。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(予算)
収益事業	自主事業	支出額	千円	1,464	1,528	4,054	4,100
活動指標・成果目標			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
年間販売額	計画	千円		4,000	3,000	3,000	3,000
	実績			2,702	2,601	2,196	

事業名 ⑤			事業概要				
普及活動事業①写真コンテスト②講演・出前講座			①写真コンテスト＝27年度は第9回「會津八一の歌を映す」写真コンテストを開催、県内外から91人145点と、過去最高の応募があった。入賞・入選作品は当館で展示後、28年4月早稲田大学、6月いかるがホール(奈良県斑鳩町)と奈良県立図書情報館(奈良市)で開催。順次県内外(胎内市産業文化会館、中村屋サロン美術館＝東京・新宿)で開催を予定。②出前講座＝中学・高校の修学旅行の事前学習はじめ新潟日報カルチャースクールなどで講座を開いている。館長や学芸員に対する県内外からの講師依頼も増えている。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,700	2,386	2,578	2,500
活動指標・成果目標			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
「八一の歌を映す」写真コンテスト 応募点数	計画	点		100	100	110	120
	実績			117	107	145	
館長・学芸員の出前講演会、講座 回数	計画	回		10	10	10	13
	実績			25	15	13	

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
役員数	10	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員〇B				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	10	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員〇B				
他団体兼任	7	8	8	8
その他				
職員数	5	5	5	5
常勤	3	3	3	3
市派遣				
市職員〇B				
プロパー職員	3	3	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	2	2
市兼任				
市職員〇B				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	2	2
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

(単位：人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
職員の状況	管理職	2	2	2	2
	一般職	3	3	3	3
	合計	5	5	5	5
年齢構成	20代以下				
	30代	2	2	2	1
	40代				1
	50代	1	1	1	
	60代以上	2	2	2	3
	合計	5	5	5	5

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
一般正味財産増減の部	経常収益	44,920	56,374	56,978
	基本財産運用益	3,190	3,185	3,185
	特定資産運用益	3	4	3
	受取会費			
	事業収益	38,805	49,541	50,865
	自主事業収益	4,939	4,671	4,617
	受託事業収益	33,866	44,870	46,248
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,922	3,644	2,925
	経常費用	45,144	57,321	53,431
	事業費	42,794	53,984	51,323
	公益目的事業費	34,671	45,370	42,762
	収益目的事業費	3,357	3,276	3,115
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	4,766	5,338	5,446
	管理費	2,350	3,337	2,108
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 224	▲ 947	3,547
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
	投資有価証券評価損益等			
	当期経常増減額	▲ 224	▲ 947	3,547
経常外収益	0	0		
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 294	▲ 1,017	3,477	
一般正味財産期首残高	38,046	37,752	36,735	
一般正味財産期末残高	37,752	36,735	40,212	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金	0	0	0
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額	0		
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高	239,476	238,459	241,936	

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	19,705	20,489	20,947
役員分			
職員分	19,705	20,489	20,947

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
資産の部	資産の部合計	247,519	246,815	256,772
	流動資産	14,749	13,569	22,514
	現金預金	6,003	5,169	11,502
	未収金	53	8	
	有価証券			
	その他流動資産	8,693	8,392	11,012
	固定資産	232,770	233,246	234,258
	基本財産	201,577	201,430	201,284
	特定資産	26,584	27,238	28,418
	その他固定資産	4,609	4,578	4,556
	有形固定資産	4,579	4,548	4,526
無形固定資産	30	30	30	
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	8,043	8,356	14,836
	流動負債	2,868	2,532	7,836
	短期借入金			
	その他流動負債	2,868	2,532	7,836
	固定負債	5,175	5,824	7,000
	長期借入金			
その他固定負債	5,175	5,824	7,000	
正味財産の部	正味財産の部合計	239,476	238,460	241,936
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	37,752	36,736	40,212
	代替基金			
その他一般正味財産	37,752	36,736	40,212	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		247,519	246,816	256,772

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
市財政支出等の合計	35,640	48,540	50,028
補助金	0	0	0
事業費補助金			
運営費補助金			
設備投資に係る補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	35,560	48,460	49,948
内 随意契約額※	35,560	48,460	49,948
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

※ 随意契約額とは、市との一者随意契約による委託料及び非公募による指定管理者料をいう。

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

--

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
純資産	239,476	238,460	241,936
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
抛出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	239,476	238,460	241,936

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度
経常損益		▲ 224 千円	▲ 947 千円	3,547 千円
自己資本比率	純資産	96.8 %	96.6 %	94.2 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	514.3 %	535.9 %	287.3 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	95.1 %	95.5 %	94.1 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 －資本金（基本金）	41,076 千円	40,060 千円	43,536 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	85.9 %	87.3 %	89.1 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.14	0.19	0.18
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	● 有	① 運用方針を明文化し、それによって運用している。 ② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 ③ 資金運用に関する情報収集に努めている。 ④ 元本割れのリスクはない。	○
		○		
		○		
		○		

（2）団体の自立性

指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	79.3 %	86.1 %	87.8 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		平成25年度	平成26年度	平成27年度
職員1人当たり売上高	事業収益	7,761 千円	9,908 千円	10,173 千円
	職員数			
職員1人当たり経常利益	事業活動収支差額	▲ 45 千円	▲ 189 千円	709 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	5.2 %	5.8 %	3.9 %
	経常費用			
職員1人当たり管理費	管理費	470 千円	667 千円	422 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	43.9 %	36.3 %	36.8 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 { 會津八一記念館中期運営計画・原案策定中 } 計画5年 平成 28～33
概要・数値目標	
<p>現在引き続き計画策定中。普及活動の範囲としては、市内外、奈良および京都を中心に全国、さらには海外も視野に入ろう。とにかく若い世代における八一の知名度向上を図らなければならない。そのためにはとりわけ新潟市内中学校にはく巡検>という見学活動の場所に記念館を選んでもらうよう働きかけ、今の数校から10校程度まで増やす。また中学・高校には奈良への修学旅行を勧めることによって八一とかの地との関わりから業績を知ってもらおう。また、県外への普及では、幸い交換展という形で他館との交流が増えていることから、さらにそれらを拡充する。写真コンテストの入賞作品の巡回展示もそういった機会を生かして展開する。平成27年9月の「東アジア書のシンポ」成功を契機に海外の美術館や大学で會津八一展開催を目指す。奈良・京都との交流を定期的には関西地区における団体（関西秋州会＝仮称）の設立が課題だ。年間入館者は1万人を目標とする。講演会は年4回の展示（特別展1・企画展3）に合わせて実施してきているが、さらに回数を増やすことを目指し、年10回を目標とする。聴講者は延べ2000人以上。収蔵作品を充実させるために八一の遺族関係者や八一と交流のあった文化人と緊密な関係を築き、寄託・譲渡といった受け入れを進める。</p>	
	<p>未策定理由</p> <p>構想した大きな企画が相次いで実現していること、また27年度は「東アジア文化交流都市」関連で、28年度は會津八一没後60年関連企画で濃密なスケジュールが続いており、4人の職場ではじっくりたき台を議論する余裕がないというのが理由。別紙で添えた「會津八一記念館のこれまでと今一中期計画に代えて」(A4紙4枚)に上記概要・数値目標とさらに詳しい目標、そこに至る考え方を記した。参照されたい。</p>

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
● 有	就任時期 年度～ 依頼先職種 { }	● 有	依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 { 税理事務所 }
● 無			無

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 28年度～ { ホームページをリニューアルしたが（28年5月）、取扱商品（グッズ）のページの充実を進め、収益向上に結び付ける。 }
● 無	

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 平成17年度～ { 市や民間の生涯学習事業やカルチャースクールの講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と普及の技術を習得する。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、周辺事項についても幅広い知識を習得し、普及の材料を集積する。上部団体の研修会にできる限り参加する。学術誌へも }
● 無	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況			
● 有	策定時期 平成12年度～ 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }	団体ホームページ掲載	● 定款等 21年度～
			● 事業内容 21年度～
			● 役員名簿 21年度～
			● 役員報酬 年度～
● 無	未整備理由 { 役員は無報酬 }		● 事業報告 21年度～
			● 正味財産増減計算書 21年度～
			● 貸借対照表 21年度～
			● 事業計画書 21年度～
		● 予算概要 21年度～	

改善対応区分
A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
B:改善の取組の効果が始まっている
C:改善の取組に着手
D:改善の取組に向けて検討中
E:今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【今後の取組み】の改善状況

		今後の取組み					
		記念館事業の内外への発信強化					
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		(書のシンボの成功) 東アジア書のシンポジウムを成功させ、報告書を年度内に発刊した。浅川園の歌碑は市との連携で古町通に移設できた					
①	今後の改善・対応方針等	①他県の各種顕彰施設等との連携を強め、会津八一作品展や関連展示を実施してもらうよう働きかけ、常に発信を心掛ける。②会津八一生誕140年に向け海外で八一展を開く道を検討する					
	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	工程	没後60年事業	海外での会津八一展	海外での会津八一展			

		今後の取組み					
		特別展を中心とした展示の充実、八一の書と歌、その他の研究で残した業績の普及					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
前年度の改善・対応内容		(入館者1万人の定着) 移転2年目ということもあってか入館者数は落ちたが、3つの企画展はそれぞれ新しい切り口でテーマを設けたことで展示内容の視点の新しさを印象付け、評価を得た。(文化の記憶館の活用) 特別展は隣接の文化の記憶館を第2会場にし、展示作品は日本だけにとまらない「東アジア」の書を見てもらうことができた。					
②	今後の改善・対応方針等	作品の買入れ寄託を進め、館蔵品の充実を図るとともに、会津八一書作品と交友関係のあった人物との書簡といった限られた作品、逆に幅広い交友関係、それらをどう料理するかで同じ作品でも目新しさが出せる。常に新しいテーマ、モチーフの開発に努める					
	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	工程	八一祭、館長講座	特別展「究極の趣味人～会津八一vs川喜田半泥子				
	写真コンテスト	第10回の作品募集と県内外における巡回展	第11回写真コンテスト				

		今後の取組み					
		新潟の書文化の発信					
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		念願の「東アジア<書之美>シンポジウムを成功させた。広く内外に新潟が良寛一巻菱湖－会津八一と続く「書の伝統を持った王国」であることを発信した。					
③	今後の改善・対応方針等	大学改革の波の中で書道科を持つ新潟大学教育学部が揺れている。新潟大学のみならず書道関連学科のある他大学との連携を模索して、たとえば27年の書のシンポに関連して開いた大学生による「書のワークショップ」といった参加型イベントを通して書を身近な存在として認識してもらう手だてを考える。会津八一生誕140年(平成33年)を視野に、書之美論文募集(3回目)を企画する。					
	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	工程	企画展「八一と刻字」	刻字ワークショップ				
			書之美論文募集→	書之美論文募集→	書之美論文募集→		

今後の取組み							
奈良・京都との定期交流							
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容		平成28年2月、京都市内において奈良・京都との交流会を開いた。高僧をはじめ新潟市と交流関係にある京都・奈良の行政関係者、博物館・マスコミ関係者と友好を深めることができた。また会場では神林館長が講演し、會津八一記念館所蔵品を展示して学芸員が解説した。					
④	今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等		會津八一と奈良・京都の寺との関係が基本にあるが、奈良との交流協定・京都との交流宣言を八一の歌・書をテーマ、幅広く市民を巻き込んだ形で実践していくことも必要と考える。			
		実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	工程	交流会	第2回交流会				

今後の取組み							
歌碑・揮毫碑の建立							
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
前年度の改善・対応内容							
⑤	今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等		京都市内で詠んだ歌はあるが、まだ歌碑が一基も建てられていない。手始めに東寺での建立を目指す			
		実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	工程	歌碑建立	京都市内の東寺での歌碑建立				

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始まっている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

今後の取組み							
後継者の育成・増員を検討しなければならない。							
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
前年度の改善・対応内容	(後継者育成。増員検討) 27年度は事務長代理を置き、引き続き期間とした。展示・講演会の企画・運営は担当学芸員がまかなっている。						
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	平成25、26年度は事務長が時間外勤務において「にいがた文化の記憶館」業務の一部にも携わったが、27年度は記憶館事務局長代理を置いて「記憶館」業務を軽減。28年度は「記憶館」専任となったことでこの体制を永続させる。					
	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	

今後の取組み							
引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。							
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
前年度の改善・対応内容	①写真コンテストは過去最高の応募者があった。初出品者も増えた②館長講演は年3回にとどまった。八一以外のテーマで講演を頼まれることが増えている③無料開放は11月3日のみ。						
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	①写真コンテストは10回目になる。第11回からは、例えば対象とする歌を一つに絞った部門(課題歌)を設けるとか、中学高校生にも応募できるような歌を選ぶとか(ジュニア部門)、応募者の開拓に結び付く方策を考える。コンテスト入賞作品の巡回展は、交換展示を持ちかけてきている他館での展示を開拓する③誕生日の8月1日、命日の11月21日は引き続き検討。					
	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		写真コンテスト	第10回コンテスト。審査委員長・浅井慎平氏も出品予定				
		巡回展会場の開拓					

今後の取組み							
中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。							
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
前年度の改善・対応内容	引き続き原案作成中である						
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等	會津八一の生き方・業績の今日性を見だし、明確にしないことには、特に若い世代への浸透・普及が望めない。文化を担う若者に向け、八一を知ること学ぶことの意義を広めるのは、記念館の役割だ。文化芸術の持つ力をまちづくりに生かすには、若い世代に新潟市の文化芸術を誇りに思ってもらうことが大切だ。文化創造の担い手は若者という視点を意識して活動の理念の一つとしたい。					
	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		①長期計画作成の意義	5年後の會津八一生誕140年を見据え、事業展開において何が必要か職員の意識を統一する				

今後の取組み							
各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。							
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
前年度の改善・対応内容		あくまでも公益活動ということを念頭に置いて、講演会などのイベントでは参加者を増やして入館に結び付けるようにしている。また収益事業では書籍や開発商品の販売を進めている。収支については財団の趣旨に基づき、委託税理の指導を受けながら適正なものになるよう努めている。					
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等		今後とも税理士事務所の指導を受け、収支において適正な公益財団事業活動となるよう努めていく。収益活動の柱の一つとして、書籍刊行を目指す				
	実施事項		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	普及・発信活動		全国の歌碑を紹介するガイドブックを出版する。	小学生までの年齢を対象に八一の生涯を描いた絵本を出版する（28年度に着手）			

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	平成27年度は、市の指定管理料を使い切ることなく約90万円を返還した。対外交流やイベント、講師招へいで費用は増加傾向にあるが、極力抑えるようにしている。イベント基金、収蔵品購入基金といった独自財源を持っている。
団体の自立性	市の指定管理団体なので、予算や企画は市との協議の上に成り立っているが、講演会開催、展示の企画運営はほとんど財団独自に行っている。
経営の効率性・適正性	財務の健全性の項でも記したが、指定管理料を返還するくらいである。無駄は出していないはず。非常勤館長を除けば職員は4人。収蔵品は會津八一の作品と書簡、関連文化人の作品といった、限られた資源しかないといってよい。その中で、常に新しい視点でテーマを設け目新しさを前面に出し、関連講演会を開き、なおかつ館外からの講演講師派遣の要請やカルチャースクールの講師依頼を引き受けている。また、対外交流も広がりつつあり事業展開も厚みを増している。大きな果実を生んでいると言えよう。
その他	
総括的な所見	
展示に関しては常設展示のスペースはないものの、その代わり常に新しい企画で會津八一の魅力や文学・美術分野における学問業績を伝える工夫を凝らし実施している。展示のテーマに絡めた講演会は、(八一の)書や短歌が中心となるが、それに限定することなく、より広い範囲の集客を目指して内容を企画しそれに合致する講師を選んでおり、好評を得ている。普及活動は県内に限らず、他県の博物館・文学館との連携で、八一の人物・学問業績を紹介してその魅力を広めるとともに、記念館においては他県の文人・文物の紹介の場を作るなどして新潟の文化振興に寄与していると自負する。特に奈良とは深い関係を築いている。	

【所管課による評価】

現状に対する評価	平成27年度は本市が東アジア文化都市に選定され、関連した企画展を記念館で開催、国内外の作品を展示したことにより、多くの方に注目をしていただいた。今後も一層の入館者数増加に向けた取組みを実施していただきたい。
課題及び改善すべき事柄	少人数の職員での施設運営となるため、情報の共有化により事務の効率化を図るとともに、人材登用計画を計画的に進めていただきたい。また、若い世代に対する會津八一の知名度向上にも注力いただきたい。
今後の指導方針	移転2年目による入館者数の減少が見られたが、年間入館料は計画を上回った。今後も魅力的な企画の計画及び特に若い世代への積極的な広報等を進めていただきたい。

【今後の取組み】

①	墨書というモノトーンの地味な作品、短歌という愛好者の限られた分野の文学。それらを材料に一般市民を引き付ける展示を企画するのが宿命づけられている。展示は「みずもの」といわれ、いいものをそろえたと思っても入館者数に反映しないこともある。斬新な切り口とテーマを追求し、展示に結び付けていく。そのためには職員間でアイデアとなる材料を出し合う場を今以上に設ける。
②	市から貴重な財源を預かっているという意識を強め、経費の節減を心がけるのは言うまでもない。それに加え、在庫となっている商品・図録等の整理・管理を進め、圧縮・スリム化を図る。(販売促進とともに現金化していくことを意識する)
③	次世代に會津八一の業績を伝えていくには、八一の生き方・魅力を知ってもらわなければならない。教育現場への働きかけを強め、授業や総合学習でとりあげてもらおうようにする。その手段・材料の一つとなる教材(伝記絵本)の製作を進める。
④	対外的に築いた関係を大切に交流を促進しながら、国内外で八一展を開く可能性を探り実現に結び付ける。

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
総括的な所見			
今後の取組みに対する評価, 改善指示事項			

【総合評価を受けての団体としての決意】

--

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項						
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等					
	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度

改善指示事項						
今後の改善・対応	今後の改善・対応方針等					
	工程	実施事項	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	成果指標	活動指標・成果目標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度